

会社説明会

～ 平成27年3月期 ～

Yamagata

Miyagi



平成27年6月19日

1.平成27年3月期決算の状況

① 損益の状況	…	1
② コア業務純益の増減要因	…	3
③ 貸出金の状況	…	4
④ 預金（譲渡性預金を含む）の状況	…	5
⑤ 預かり資産の状況	…	6
⑥ 有価証券の状況	…	7
⑦ 各種利回り・利鞘の状況	…	8
⑧ 経費・経営効率化の状況	…	9
⑨ 金融再生法開示債権の状況	…	10
⑩ 自己資本比率の状況	…	11
⑪ R O E の状況	…	12
⑫ 平成28年3月期業績予想	…	13

2.両行における取組みについて

① 仙台銀行のトピックス	
～顧客の利便性回復に向けた本業支援～	… 14
～被災地産業の復興に向けた本業支援～	… 15
② きらやか銀行のトピックス	
～本業支援の取組み～	… 16

3.じもとホールディングスの取組みについて

① 「本業支援戦略部」の新設とその後の動き	… 19
② じもとホールディングスのトピックス	… 21
③ じもとホールディングス新中期経営計画	… 22
きらやか銀行新中期経営計画	… 23
仙台銀行新中期経営計画	… 24
④ じもとホールディングスの内部管理態勢	… 25

1. 平成27年3月期 決算の状況

① 損益の状況

① じもとホールディングス連結

(単位:百万円、%)

	26年3月期	27年3月期	前年同期比	増減率
連結経常収益	41,548	42,755	1,206	2.9
連結経常利益	6,114	6,751	636	10.4
連結当期純利益	4,661	5,986	1,324	28.4

- じもとホールディングスの連結経常収益は427億55百万円、連結経常利益は67億51百万円、連結当期純利益は59億86百万円となりました。

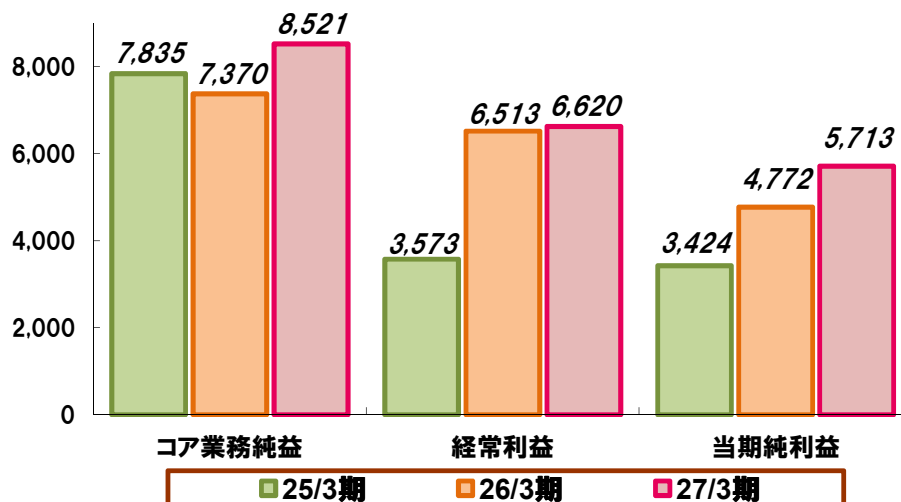
② 2行合算

(単位:百万円、%)

	26年3月期	27年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	41,538	42,213	675	1.6
業務粗利益	33,078	34,889	1,810	5.4
資金利益	30,024	30,678	654	2.1
役務取引等利益	2,990	3,120	129	4.3
その他業務利益	62	1,090	1,027	-
うち国債等債券損益	47	1,077	1,029	-
経費(除く臨時処理分)	25,660	25,290	△ 369	△ 1.4
うち人件費	12,535	12,751	216	1.7
うち物件費	11,730	10,946	△ 783	△ 6.6
業務純益(一般貸倒繰入前)	7,417	9,598	2,180	29.3
コア業務純益	7,370	8,521	1,151	15.6
一般貸倒引当金繰入額	△ 96	△ 611	△ 515	-
業務純益	7,514	10,210	2,695	35.8
臨時損益	△ 1,000	△ 3,590	△ 2,589	-
うち不良債権処理額	865	2,487	1,621	187.4
うち個別貸倒引当金繰入額	551	1,930	1,379	250.2
うち貸倒引当金戻入益	557	-	△ 557	-
うち株式等関係損益	265	391	125	47.3
経常利益	6,513	6,620	106	1.6
特別損益	△ 1,581	△ 56	1,525	-
当期純利益	4,772	5,713	940	19.7
与信関係費用	193	1,820	1,626	-

- 2行合算の経常収益は、前年同期比6億75百万円増加の422億13百万円(増減率1.6%)となりました。
- 銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、有価証券関係損益の増加等により、前年同期比11億51百万円増加の85億21百万円(増減率15.6%)となりました。
- 経常利益は前年同期比1億6百万円増加の66億20百万円、当期純利益は前年同期比9億40百万円増加の57億13百万円となりました。

(単位:百万円)



① 損益の状況

③ きらやか銀行単体

(単位:百万円、%)

	26年3月期	27年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	24,874	25,728	854	3.4
業務粗利益	20,058	21,096	1,038	5.1
資金利益	18,372	18,876	503	2.7
役務取引等利益	1,490	1,614	123	8.2
その他業務利益	195	606	410	210.5
うち国債等債券損益	184	597	412	223.1
経費(除く臨時処理分)	14,734	14,967	233	1.5
うち人件費	7,712	7,918	206	2.6
うち物件費	6,296	6,152	△143	△2.2
業務純益(一般貸倒繰入前)	5,324	6,128	804	15.1
コア業務純益	5,139	5,531	392	7.6
一般貸倒引当金繰入額	△96	△87	9	-
業務純益	5,420	6,216	795	14.6
臨時損益	△1,978	△2,823	△845	-
うち不良債権処理額	749	1,591	842	112.3
うち個別貸倒引当金繰入額	551	1,307	756	137.1
うち株式等関係損益	191	165	△25	△13.4
経常利益	3,442	3,392	△50	△1.4
特別損益	△1,077	△17	1,059	-
当期純利益	2,239	2,337	97	4.3
与信関係費用	650	1,567	917	141.1

- 経常収益は、貸出利回りの低下により貸出金利息が減少したものの、有価証券利息配当金や国債等債券売却益が増加したことなどから、前年同期比8億54百万円増加の257億28百万円（増減率3.4%）となりました。
- 銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや経費削減に努めたことで物件費が減少したことなどから、前年同期比3億92百万円増加の55億31百万円（増減率7.6%）となりました。
- 与信関係費用は、前年同期比9億17百万円増加の15億67百万円となりました。
- この結果、経常利益は前年同期比50百万円減少の33億92百万円、当期純利益は前年同期比97百万円増加の23億37百万円となりました。

④ 仙台銀行単体

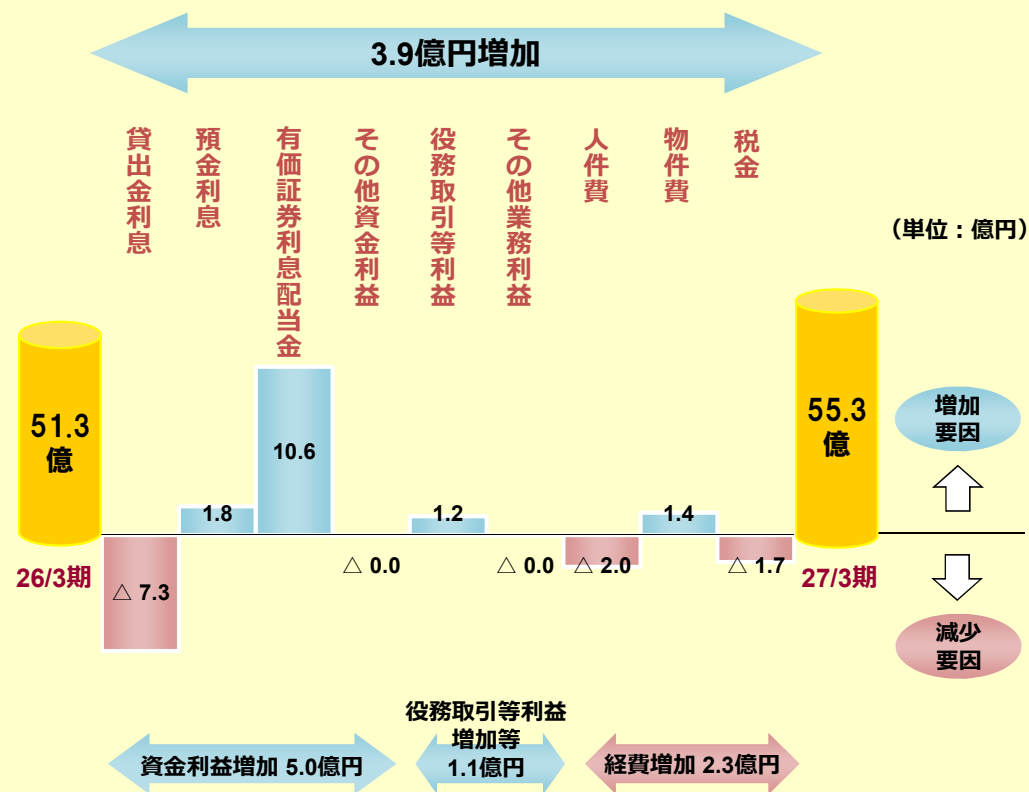
(単位:百万円、%)

	26年3月期	27年3月期	前年同期比	増減率
経常収益	16,664	16,485	△178	△1.0
業務粗利益	13,020	13,792	772	5.9
資金利益	11,652	11,802	150	1.2
役務取引等利益	1,500	1,506	5	0.3
その他業務利益	△132	484	616	-
うち国債等債券損益	△137	480	617	-
経費(除く臨時処理分)	10,926	10,322	△603	△5.5
うち人件費	4,823	4,833	10	0.2
うち物件費	5,433	4,794	△639	△11.7
業務純益(一般貸倒繰入前)	2,093	3,469	1,376	65.7
コア業務純益	2,230	2,989	758	34.0
一般貸倒引当金繰入額	-	△524	△524	-
業務純益	2,093	3,994	1,900	90.7
臨時損益	977	△766	△1,743	-
うち不良債権処理額	115	828	713	-
うち個別貸倒引当金繰入額	-	623	623	-
うち貸倒引当金戻入益	557	-	△557	-
うち株式等関係損益	74	226	151	202.6
経常利益	3,071	3,228	156	5.1
特別損益	△504	△38	465	-
当期純利益	2,532	3,376	843	33.2
与信関係費用	△456	252	708	-

- 経常収益は、有価証券利息配当金や国債等債券償還益が増加したものの、貸倒引当金戻入益が減少したことなどから、前年同期比1億78百万円減少の164億85百万円（増減率△1.0%）となりました。
- 銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや物件費の削減に努めたことなどから、前年同期比7億58百万円増加の29億89百万円（増減率34.0%）となりました。
- 与信関係費用は、個別貸倒引当金の繰入などにより前年同期比7億8百万円増加の2億52百万円となりました。
- この結果、経常利益は前年同期比1億56百万円増加の32億28百万円、当期純利益は前年同期比8億43百万円増加の33億76百万円となりました。

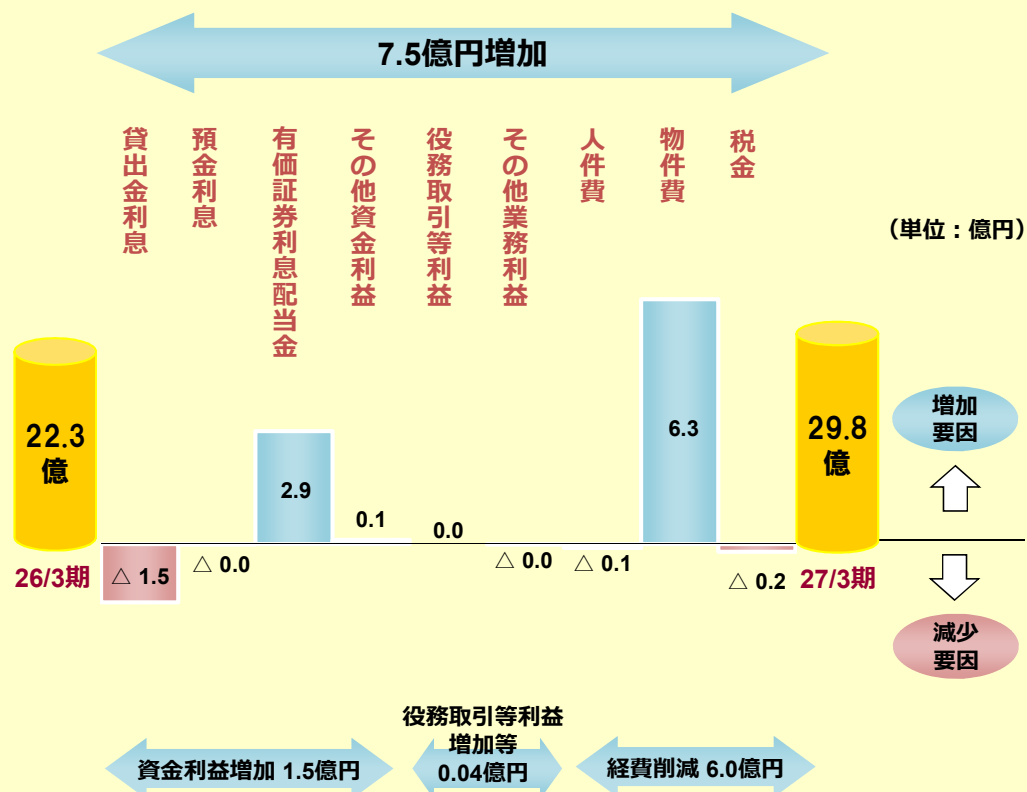
②コア業務純益の増減要因

① きらやか銀行



貸出金利息が減少し、次期システム移行作業に伴い人件費が増加となったものの、有価証券利息配当金や役務取引等利益が増加したことや、物件費削減に取組んだ結果、コア業務純益は前年同期比3.9億円増加となりました。

② 仙台銀行

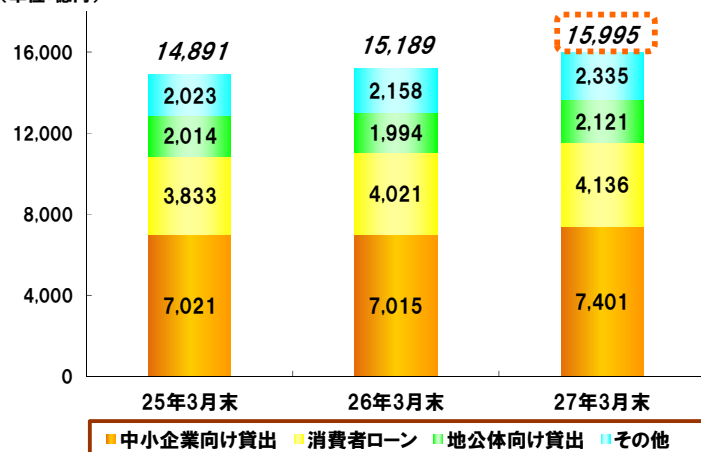


貸出金利息が減少したものの、有価証券利息配当金が増加したほか、物件費の削減などにより、コア業務純益は前年同期比7.5億円増加となりました。

③貸出金の状況

① 2行合算

(単位:億円)



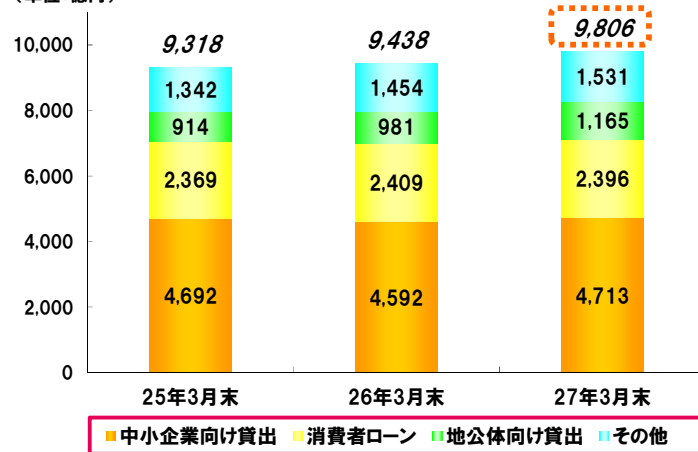
(単位:百万円、%)

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
貸出金(末残)	1,518,935	1,599,527	80,592	5.3
うち中小企業向け貸出残高	701,515	740,175	38,660	5.5
うち消費者ローン	402,116	413,636	11,519	2.8
うち住宅ローン	378,578	386,158	7,579	2.0
うち地方公共団体向け貸出	199,435	212,122	12,687	6.3

- 2行合算の貸出金残高は、26年3月末比805億92百万円増加の1兆5,995億27百万円となりました。

② きらやか銀行

(単位:億円)



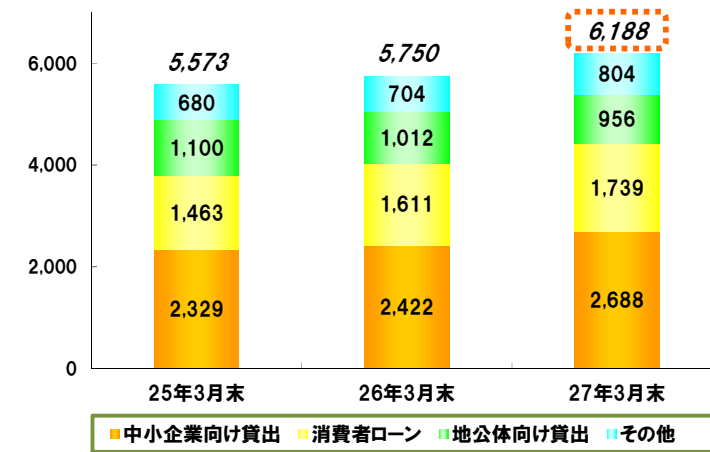
(単位:百万円、%)

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
貸出金(末残)	943,847	980,658	36,810	3.9
うち中小企業向け貸出残高	459,275	471,322	12,046	2.6
うち消費者ローン	240,972	239,660	△ 1,311	△ 0.5
うち住宅ローン	228,695	227,431	△ 1,265	△ 0.5
うち地方公共団体向け貸出	98,165	116,522	18,357	18.7

- 貸出金残高は、26年3月末比368億10百万円増加の9,806億58百万円となりました。
- 中小企業向け貸出は、本業支援を戦略として展開してきたことにより、26年3月末比120億46百万円増加の4,713億22百万円となりました。
- 消費者ローンは、住宅ローン貸出の減少により、26年3月末比13億11百万円減少の2,396億60百万円となりました。
- 地方公共団体向け貸出は、26年3月末比183億57百万円増加の1,165億22百万円となりました。

③ 仙台銀行

(単位:億円)



(単位:百万円、%)

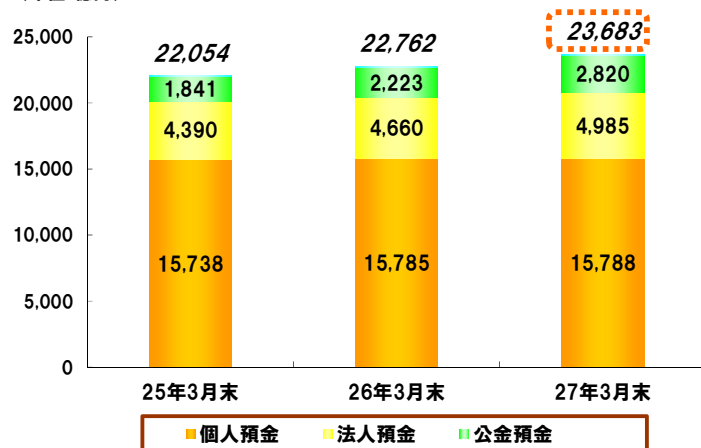
	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
貸出金(末残)	575,087	618,869	43,782	7.6
うち中小企業向け貸出残高	242,239	268,853	26,613	10.9
うち消費者ローン	161,144	173,976	12,831	7.9
うち住宅ローン	149,882	158,726	8,844	5.9
うち地方公共団体向け貸出	101,270	95,600	△ 5,669	△ 5.5

- 貸出金残高は、26年3月末比437億82百万円増加の6,188億69百万円となりました。
- 中小企業向け貸出は、震災復興に係る様々な資金需要への対応により、26年3月末比266億13百万円増加の2,688億53百万円となりました。
- 消費者ローンは、住宅ローンや個人ローン貸出の増加により、26年3月末比128億31百万円増加の1,739億76百万円となりました。
- 地方公共団体向け貸出は、26年3月末比56億69百万円減少の956億円となりました。

④ 預金（譲渡性預金を含む）の状況

① 2行合算

（単位：億円）



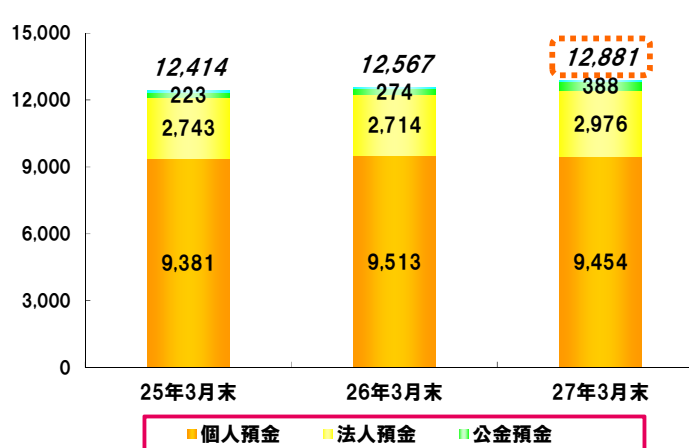
（単位：百万円、％）

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
預金（譲渡性預金含む）（末残）	2,276,217	2,368,310	92,092	4.0
うち個人預金	1,578,506	1,578,840	333	0.0
うち法人預金	466,049	498,576	32,527	6.9
うち公金預金	222,398	282,041	59,643	26.8

- 2行合算の預金残高は、26年3月末比920億92百万円増加の2兆3,683億10百万円となりました。

② きらやか銀行

（単位：億円）



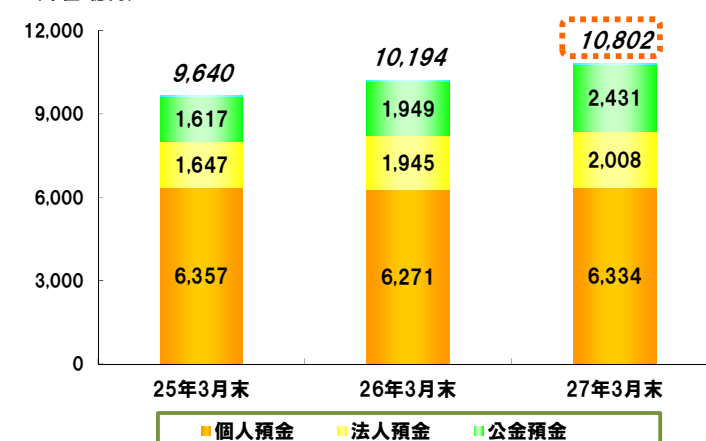
（単位：百万円、％）

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
預金（譲渡性預金含む）（末残）	1,256,779	1,288,109	31,329	2.4
うち個人預金	951,307	945,401	△ 5,905	△ 0.6
うち法人預金	271,469	297,690	26,220	9.6
うち公金預金	27,458	38,878	11,420	41.5

- 預金残高は、法人預金・公金預金が増加したことにより、26年3月末比313億29百万円増加の1兆2,881億9百万円となりました。
- 個人預金は、個人定期預金が減少したことなどにより26年3月末比59億5百万円減少の9,454億1百万円となりました。
- 法人預金は、流動性・定期性預金ともに大幅に増加したことなどから、26年3月末比262億20百万円増加の2,976億90百万円となりました。
- 公金預金は、26年3月末比114億20百万円増加の388億78百万円となりました。

③ 仙台銀行

（単位：億円）



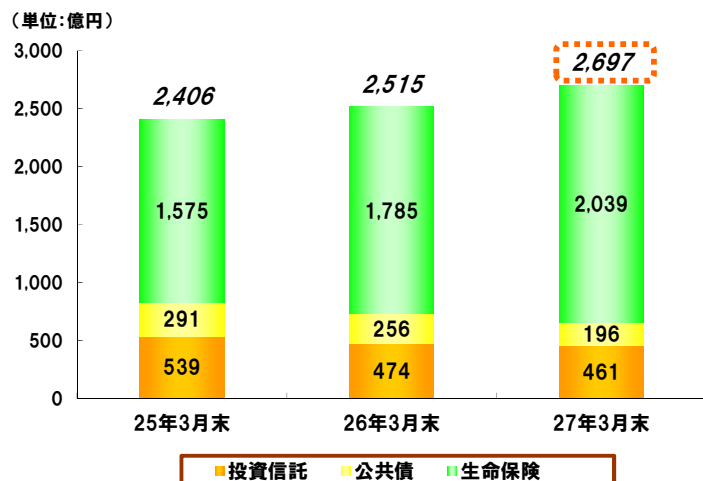
（単位：百万円、％）

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
預金（譲渡性預金含む）（末残）	1,019,438	1,080,201	60,762	5.9
うち個人預金	627,199	633,438	6,239	0.9
うち法人預金	194,579	200,885	6,306	3.2
うち公金預金	194,940	243,163	48,222	24.7

- 預金残高は、公金預金等の増加により、26年3月末比607億62百万円増加の1兆802億1百万円となりました。
- 個人預金は、26年3月末比62億39百万円増加の6,334億38百万円となりました。
- 法人預金は、企業の手持資金の増加などにより、26年3月末比63億6百万円増加の2,008億85百万円となりました。
- 公金預金は、26年3月末比482億22百万円増加の2,431億63百万円となりました。

⑤ 預かり資産の状況

① 2行合算



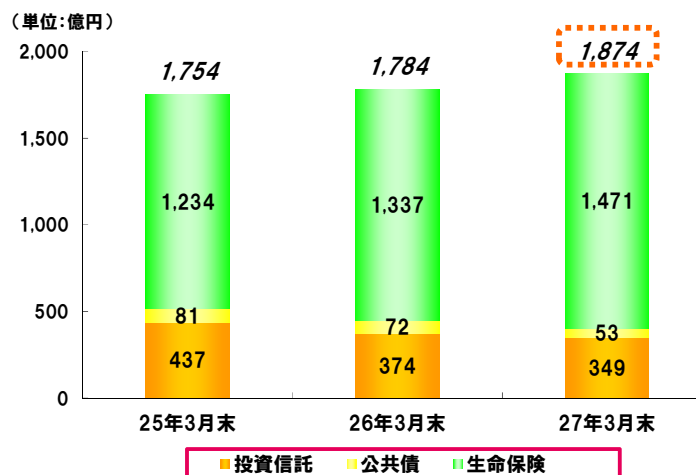
(単位: 百万円、%)

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
預かり資産(末残)	251,596	269,740	18,144	7.2
うち投資信託	47,412	46,148	△ 1,263	△ 2.6
うち公共債(国債等)	25,659	19,652	△ 6,006	△ 23.4
うち生命保険	178,524	203,939	25,414	14.2

(注) 生命保険残高は、成約累計残高としており、解約分は考慮していません。

- 2行合算の預かり残高は、26年3月比181億44百万円増加の2,697億40百万円となりました。

② きらやか銀行



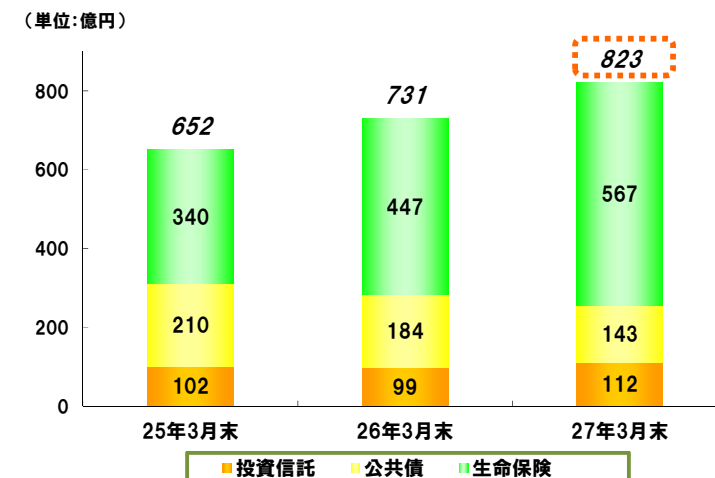
(単位: 百万円、%)

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
預かり資産(末残)	178,463	187,403	8,940	5.0
うち投資信託	37,432	34,931	△ 2,501	△ 6.6
うち公共債(国債等)	7,256	5,326	△ 1,930	△ 26.6
うち生命保険	133,774	147,145	13,371	9.9

(注) 生命保険残高は、成約累計残高としており、解約分は考慮していません。

- 預かり資産残高は、26年3月末比89億40百万円増加の1,874億3百万円となりました。
- 投資信託は、26年3月末比25億1百万円減少の349億31百万円となりました。
- 公共債は、26年3月末比19億30百万円減少の53億26百万円となりました。
- 生命保険は、安定志向にあるお客様のニーズが依然高く、販売額が増加したことで、26年3月末比133億71百万円増加の1,471億45百万円となりました。

③ 仙台銀行



(単位: 百万円、%)

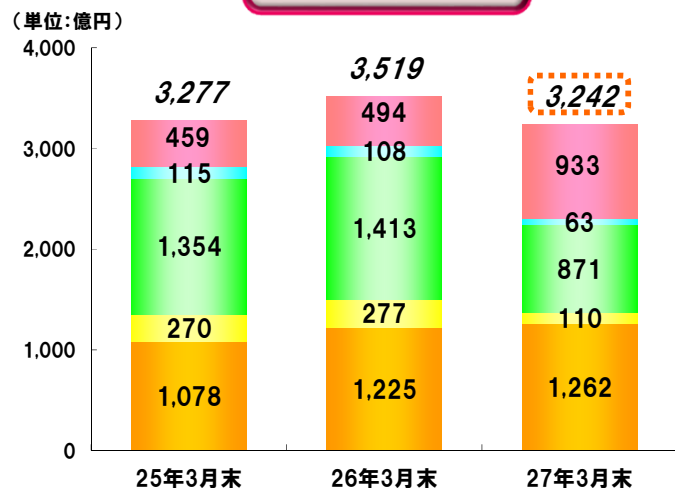
	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比	増減率
預かり資産(末残)	73,132	82,336	9,204	12.5
うち投資信託	9,980	11,217	1,237	12.3
うち公共債(国債等)	18,402	14,325	△ 4,076	△ 22.1
うち生命保険	44,750	56,793	12,043	26.9

(注) 生命保険残高は、成約累計残高としており、解約分は考慮していません。

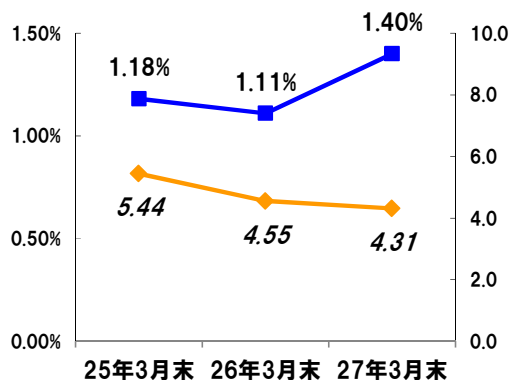
- 預かり資産残高は、26年3月末比92億4百万円増加の823億36百万円となりました。
- 投資信託は、26年3月末比12億37百万円増加の112億17百万円となりました。
- 公共債は、26年3月末比40億76百万円減少の143億25百万円となりました。
- 生命保険は、営業店と資産運用サポートチームの販売強化により、26年3月末比120億43百万円増加の567億93百万円となりました。

⑥有価証券の状況

① きらやか銀行



■国債 ■地方債 ■社債 ■株式 ■その他証券



25年3月末 26年3月末 27年3月末

○修正デュレーション ■有価証券利回り

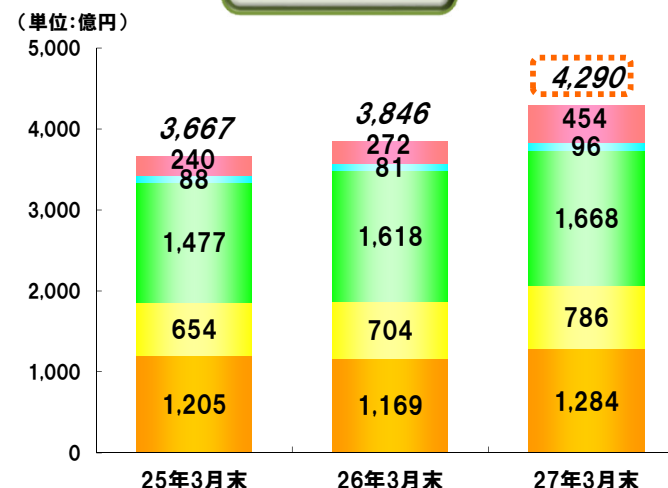
その他有価証券の評価損益

(単位:百万円)

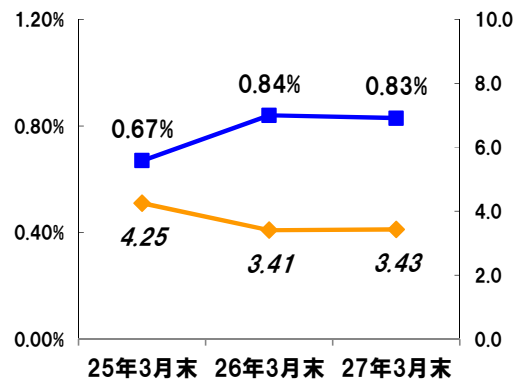
	26年 3月末	27年 3月末	26年 3月末比
その他有価証券	2,530	7,488	4,958
株式	535	1,487	952
債券	2,726	3,399	673
その他	△ 731	2,601	3,332

- 有価証券残高は、ポートフォリオの見直しを実施したことにより、26年3月末比276億78百万円減少の3,242億34百万円となりました。
- その他有価証券の評価損益は、市場の回復に伴い26年3月末比49億58百万円改善し、74億88百万円の評価益となりました。
- 保有債券の修正デュレーション（固定債のみ） 4.31（前年比△0.24）

② 仙台銀行



■国債 ■地方債 ■社債 ■株式 ■その他証券



25年3月末 26年3月末 27年3月末

○修正デュレーション ■有価証券利回り

その他有価証券の評価損益

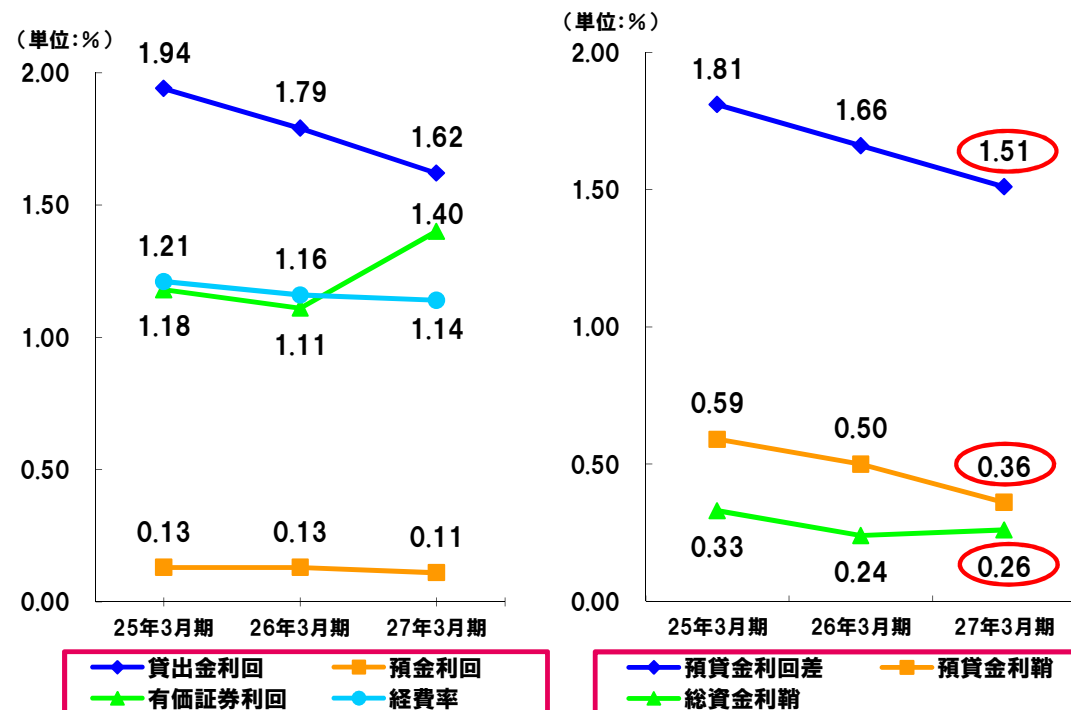
(単位:百万円)

	26年 3月末	27年 3月末	26年 3月末比
その他有価証券	5,960	8,948	2,987
株式	2,101	4,406	2,305
債券	3,868	4,286	417
その他	△ 9	255	264

- 有価証券残高は、預金残高の増加に伴い債券を中心に運用額を増加したことなどから、26年3月末比444億16百万円増加の4,290億80百万円となりました。
- その他有価証券の評価損益は、市場の回復に伴い26年3月末比29億87百万円改善し、89億48百万円の評価益となりました。
- 保有債券の修正デュレーション（固定債のみ） 3.43（前年比+0.02）

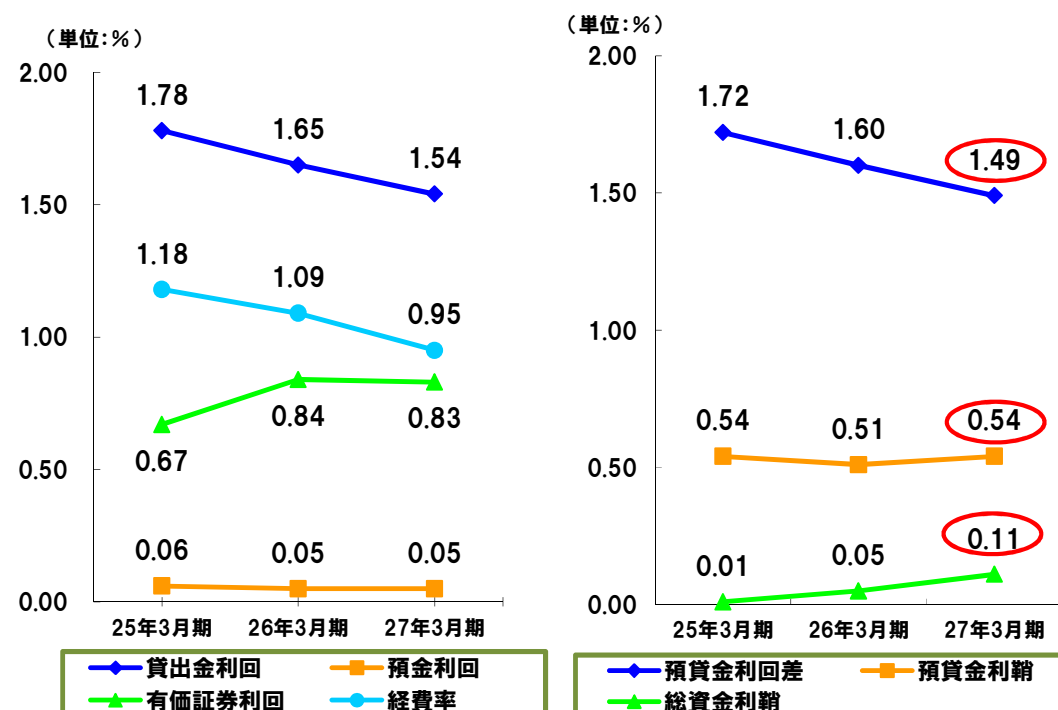
⑦各種利回り・利鞘の状況

① きらやか銀行



- 預貸金利回差 1.51% (前年同期比 0.15p低下)
市場金利の低下により、貸出金利回りが低下しました。預金利回りが前年同期比0.02p低下したものの、貸出金利回り低下分 (0.17p) をカバーできなかったことから、前年同期比低下となりました。
- 預貸金利鞘 0.36% (前年同期比0.14p低下)
経費は減少したものの、預貸金利回差が縮小したことにより、前年同期比マイナスとなりました。
- 総資金利鞘 0.26% (前年同期比0.02p上昇)
資金運用利回が0.02p低下したものの、資金調達原価が0.04p低下したことで、前年同期比プラスとなりました。

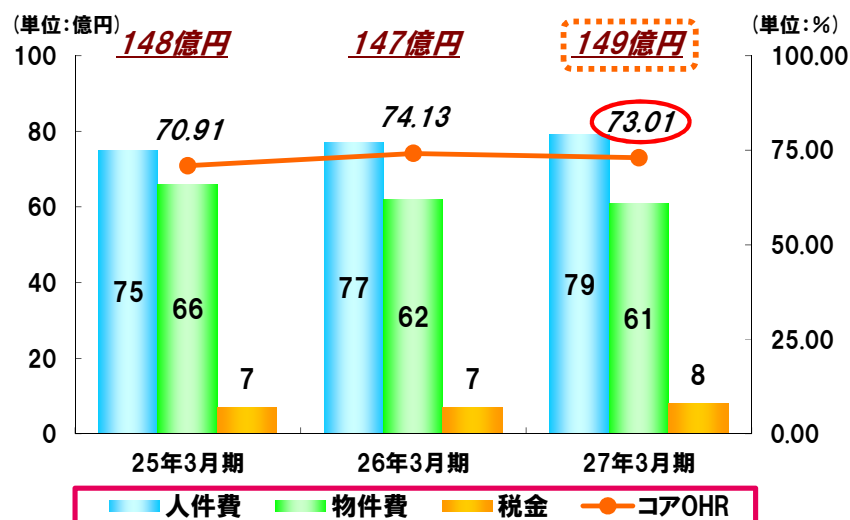
② 仙台銀行



- 預貸金利回差 1.49% (前年同期比0.11p低下)
市場金利の低下により、貸出金利回りが低下しました。預金利回は前年同水準となったことから、貸出金利回りが低下 (0.11p) した分、前年同期比低下となりました。
- 預貸金利鞘 0.54% (前年同期比0.03p上昇)
預貸金利回差が縮小したものの、経費が減少したことにより、前年同期比プラスとなりました。
- 総資金利鞘 0.11% (前年同期比0.06p上昇)
資金運用利回が0.07p低下したものの、資金調達原価が0.14p低下したことで、前年同期比プラスとなりました。

⑧経費・経営効率化の状況

① きらやか銀行



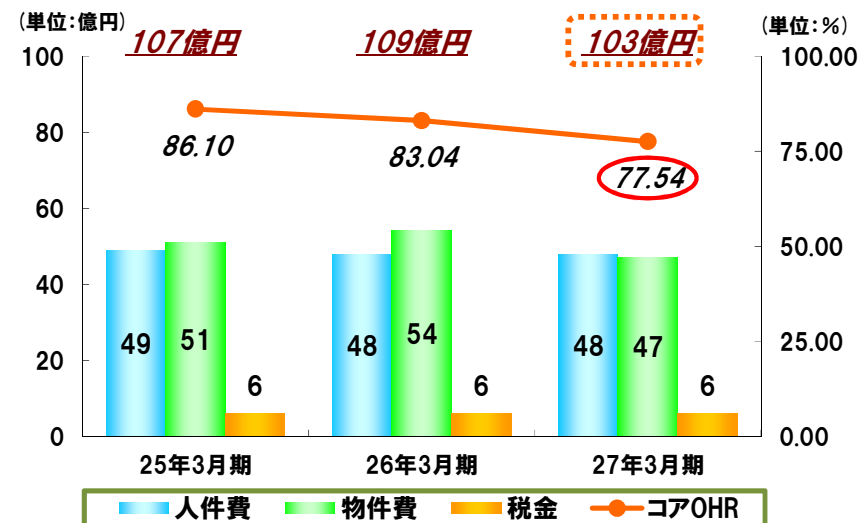
(単位:百万円)

	25年3月末	26年3月末	27年3月末
一人当たり預金	1,339	1,331	1,336
一人当たり貸出金	1,005	999	1,017
一店舗当たり預金	15,517	16,112	16,514
一店舗当たり貸出金	11,648	12,100	12,572
店舗数(店)	80	78	78
行員数(人)	927	944	964

※店舗数については、ブランチ・イン・ブランチ実施店を1店舗として計上。
※行員数は、正行員数で出向者を除く

- 経費は、物件費を中心とした経費削減に努めたものの、次期システム移行作業に関連して人件費が増加したことなどから、前年同期比2億33百万円増加の149億67百万円となりました。
- コアOHRは経費が増加したものの、コア業務粗利益が増加したため、前年同期比1.12ポイント改善の73.01%となりました。

② 仙台銀行



(単位:百万円)

	25年3月末	26年3月末	27年3月末
一人当たり預金	1,344	1,417	1,508
一人当たり貸出金	777	799	864
一店舗当たり預金	15,803	16,712	17,708
一店舗当たり貸出金	9,136	9,427	10,145
店舗数(店)	61	61	61
行員数(人)	717	719	716

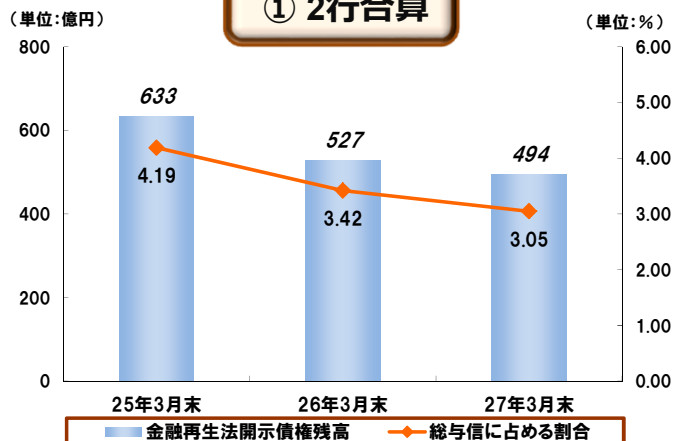
※店舗数については、ブランチ・イン・ブランチ実施店を1店舗として計上。
※行員数は、正行員数で出向者を除く

- 経費は、物件費の削減に努めたことなどから、前年同期比6億3百万円減少の103億22百万円となりました。
- コアOHRは経費が減少し、コア業務粗利益が増加したため、前年同期比5.50ポイント改善の77.54%となりました。



⑨ 金融再生法開示債権の状況

① 2行合算



①金融再生法開示債権残高 (単位: 百万円、%)

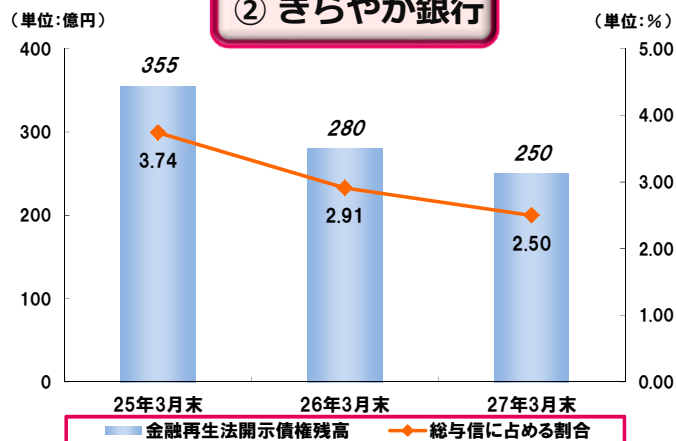
	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,980	4,234	△ 2,746
危険債権	40,877	40,826	△ 50
要管理債権	4,933	4,435	△ 497
合計 (A)	52,791	49,496	△ 3,295
正常債権	1,488,012	1,570,381	82,369
総与信額 (B)	1,540,803	1,619,877	79,074
(A / B)	3.42	3.05	△ 0.37

②金融再生法開示債権の保全状況(27年3月末) (単位: 百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)		保全率 (B/A)	
		担保保証等	貸倒引当金		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,234	4,234	2,483	1,750	100.00
危険債権	40,826	36,846	29,798	7,047	90.25
要管理債権	4,435	1,241	841	399	27.98
合計	49,496	42,322	33,124	9,197	85.50

- 2行合算の金融再生法開示債権残高は、前年比32億95百万円減少の494億96百万円となりました。
- 総与信額に対する比率は、前年比0.37ポイント低下の3.05%となりました。
- 金融再生法開示債権の保全率は85.50%となりました。

② きらやか銀行



①金融再生法開示債権残高 (単位: 百万円、%)

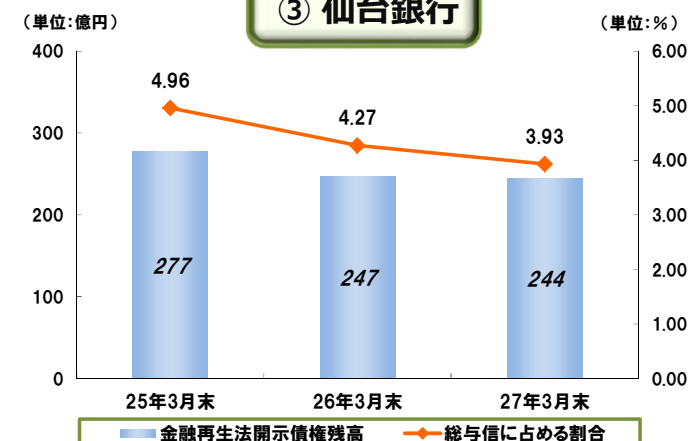
	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,583	2,688	△ 1,894
危険債権	19,825	19,253	△ 571
要管理債権	3,616	3,094	△ 521
合計 (A)	28,024	25,036	△ 2,987
正常債権	933,769	972,471	38,702
総与信額 (B)	961,793	997,508	35,714
(A / B)	2.91	2.50	△ 0.41

②金融再生法開示債権の保全状況(27年3月末) (単位: 百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)		保全率 (B/A)	
		担保保証等	貸倒引当金		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,688	2,688	1,559	1,129	100.00
危険債権	19,253	15,839	12,020	3,818	82.26
要管理債権	3,094	470	214	256	15.20
合計	25,036	18,998	13,794	5,203	75.88

- 金融再生法開示債権残高は、前年比29億87百万円減少の250億36百万円となりました。
- 総与信額に対する比率は、前年比0.41ポイント低下の2.50%となりました。
- 金融再生法開示債権の保全率は75.88%となりました。

③ 仙台銀行



①金融再生法開示債権残高 (単位: 百万円、%)

	26年3月末	27年3月末	26年 3月末比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,397	1,545	△ 851
危険債権	21,052	21,573	520
要管理債権	1,317	1,340	23
合計 (A)	24,766	24,459	△ 307
正常債権	554,243	597,910	43,667
総与信額 (B)	579,009	622,369	43,359
(A / B)	4.27	3.93	△ 0.34

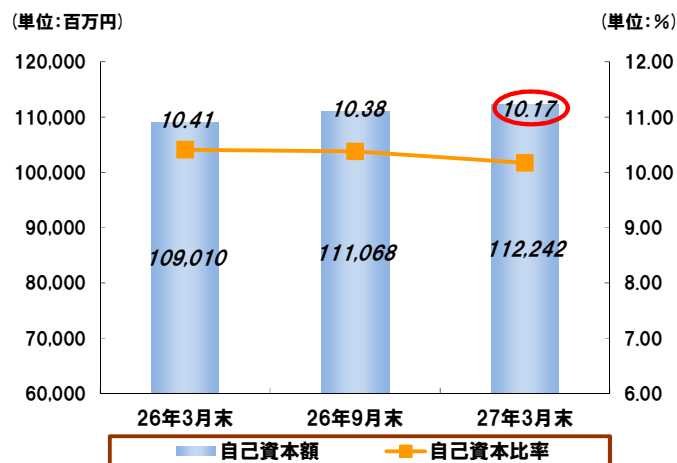
②金融再生法開示債権の保全状況(27年3月末) (単位: 百万円、%)

	債権額 (A)	保全額 (B)		保全率 (B/A)	
		担保保証等	貸倒引当金		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,545	1,545	923	621	100.00
危険債権	21,573	21,007	17,778	3,229	97.37
要管理債権	1,340	770	627	143	57.47
合計	24,459	23,323	19,329	3,993	95.35

- 金融再生法開示債権残高は、前年比3億7百万円減少の244億59百万円となりました。
- 総与信額に対する比率は、前年比0.34ポイント低下の3.93%となりました。
- 金融再生法開示債権の保全率は95.35%となりました。

⑩ 自己資本比率の状況

① じもとホールディングス連結

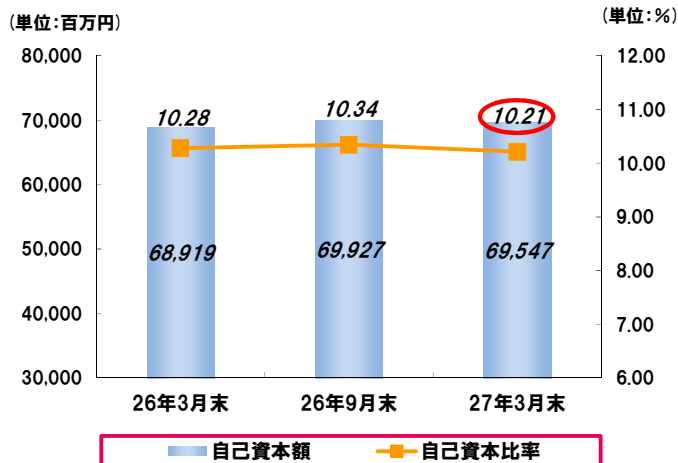


(単位:%)

	26年 3月末	26年 9月末	27年 3月末	26年 3月末比	26年 9月末比
連結自己資本比率	10.41	10.38	10.17	Δ 0.24	Δ 0.21

- じもとホールディングスの連結自己資本比率は10.17%となりました。

② きらやか銀行

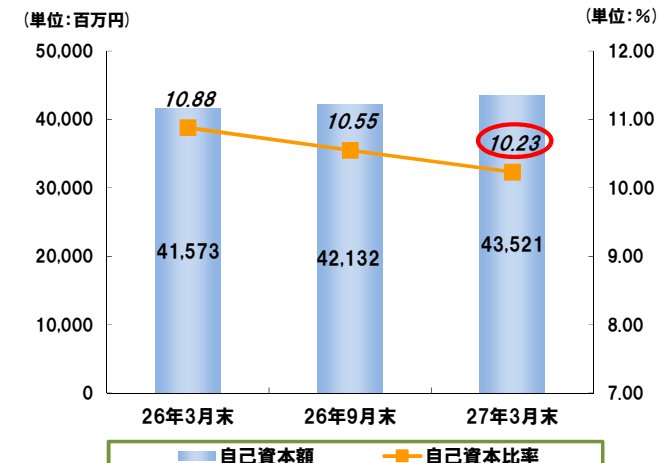


(単位:%)

	26年 3月末	26年 9月末	27年 3月末	26年 3月末比	26年 9月末比
自己資本比率【単体】	10.28	10.34	10.21	Δ 0.07	Δ 0.13
自己資本比率【連結】	10.32	10.41	10.22	Δ 0.10	Δ 0.19

- 単体の自己資本比率は、当期純利益を23億37百万円計上したことで、自己資本額（分子）が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、26年3月末比0.07ポイント低下の10.21%となりました。
- 連結の自己資本比率は26年3月末比0.10ポイント低下の10.22%となりました。

③ 仙台銀行



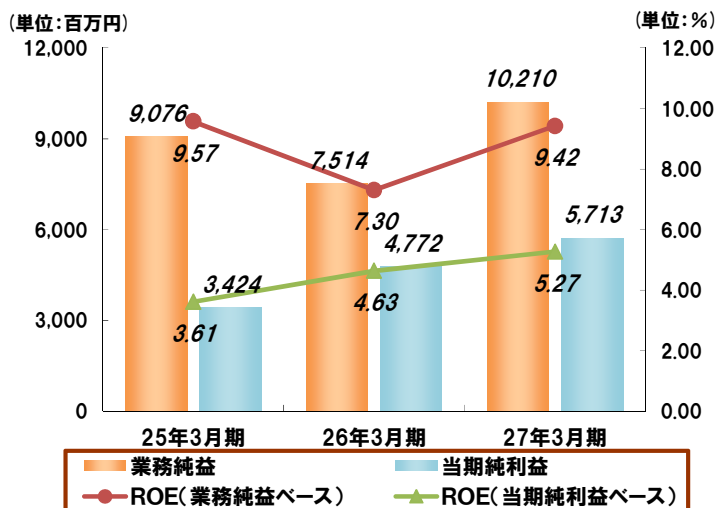
(単位:%)

	26年 3月末	26年 9月末	27年 3月末	26年 3月末比	26年 9月末比
自己資本比率	10.88	10.55	10.23	Δ 0.65	Δ 0.32

- 自己資本比率は、当期純利益を33億76百万円計上したことで、自己資本額（分子）が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、26年3月末比0.65ポイント低下の10.23%となりました。

⑪ ROEの状況

① 2行合算

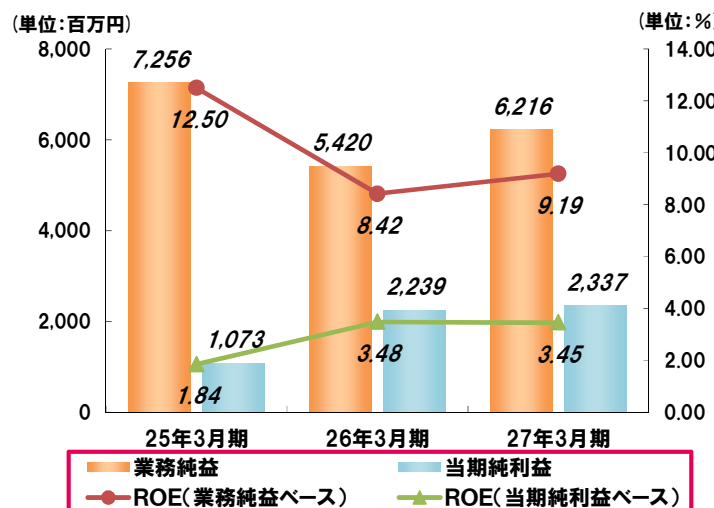


(単位:%)

		26年 3月期	27年 3月期	26年 3月期比
ROE	業務純益ベース	7.30	9.42	2.12
	当期純利益ベース	4.63	5.27	0.64

- 27年3月期の2行合算のROE
業務純益ベース 9.42% (前年同期比+2.12p)
当期純利益ベース 5.27% (前年同期比+0.64p)

② きらやか銀行

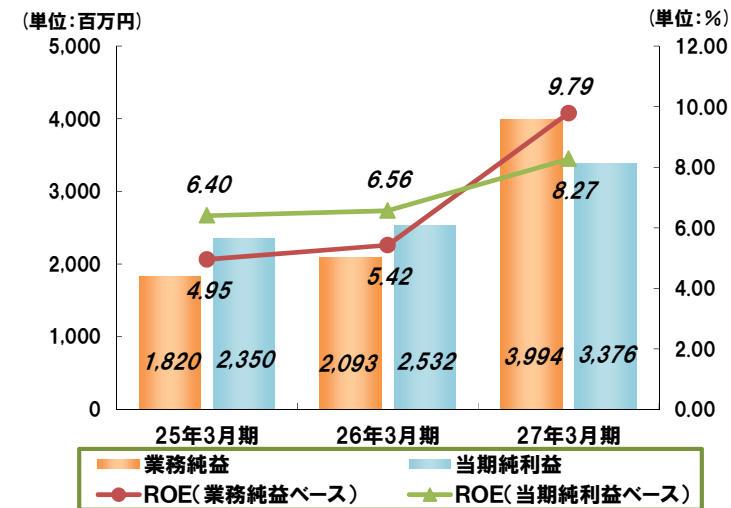


(単位:%)

		26年 3月期	27年 3月期	26年 3月期比
ROE	業務純益ベース	8.42	9.19	0.77
	当期純利益ベース	3.48	3.45	△0.03

- 27年3月期のきらやか銀行のROE
業務純益ベース 9.19% (前年同期比+0.77p)
当期純利益ベース 3.45% (前年同期比△0.03p)

③ 仙台銀行



(単位:%)

		26年 3月期	27年 3月期	26年 3月期比
ROE	業務純益ベース	5.42	9.79	4.37
	当期純利益ベース	6.56	8.27	1.71

- 27年3月期の仙台銀行のROE
業務純益ベース 9.79% (前年同期比+4.37p)
当期純利益ベース 8.27% (前年同期比+1.71p)

⑫平成28年3月期業績予想

① じもとホールディングスの連結業績予想及び配当方針

(単位:百万円)

	28年3月期	中間期	(参考) 27年3月期
経常利益	2,200	700	6,751
当期純利益	2,100	800	5,986

基準日	中間	期末	年間
配当予想	2円50銭	2円50銭	5円00銭
(参考)27年3月期	2円50銭	2円50銭	5円00銭

- じもとホールディングスの平成28年3月期の連結業績予想は、経常利益22億円、当期純利益21億円を見込んでおります。
- じもとホールディングスの平成27年3月期の1株あたりの期末配当金は、2円50銭を予定しております。また、平成28年3月期の年間配当金は、1株あたり5円を予定しております。

② 子銀行の個別業績予想

きらやか銀行

(単位:百万円)

	28年3月期	中間期	(参考) 27年3月期
経常利益	1,500	500	3,392
当期純利益	1,400	500	2,337

仙台銀行

(単位:百万円)

	28年3月期	中間期	(参考) 27年3月期
経常利益	1,200	500	3,228
当期純利益	1,100	400	3,376

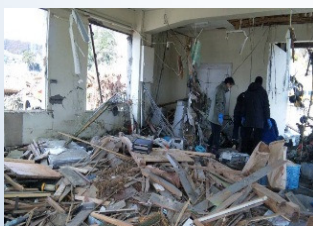
- きらやか銀行単体ベースでは、経常利益15億円、当期純利益14億円を見込んでおります。
- 仙台銀行単体ベースでは、経常利益12億円、当期純利益11億円を見込んでおります。

2. 両行における取組みについて

東日本大震災から4年、仙台銀行の現在まで取り組み



① 志津川支店



がれきの整理を行う志津川支店



店内の整理を行う気仙沼支店



② 気仙沼支店



③ 大河原支店



プレハブ建物で気仙沼支店仮設窓口
(気仙沼商工会議所駐車場)



平成23年3月11日（金）
震災直後
沿岸5店舗が全壊、多数の店舗・
ATMが浸水・破損

平成23年3月15日（火）以降
・職員による懸命な復旧作業
・仮設窓口・移動店舗でのお客さま
対応・店舗移転等による営業再開



④ 雄勝支店



⑤ 塩釜支店



避難所での雄勝支店仮設窓口



仮設店舗で営業再開した塩釜支店

今後も継続的に、お客さまの
利便性向上に取り組んでまいります



“新”志津川支店・歌津支店



“新”気仙沼支店



“新”大河原支店

現在までに

- ・5店舗1出張所を新築建替
- ・巡回式移動店舗の営業継続
- ・自治体の復興計画に合わせ
更に店舗・ATMを復旧整備



移動店舗
「どこでも窓口」



“新”塩釜支店

① 仙台銀行のトピックス ～被災地産業の復興に向けた本業支援～

被災地産業への主な本業支援事例

- 第1次産業の復興・第6次産業化への支援
- 被災工場の再建を支援
- きらやか銀行との協調融資による支援

②

《石巻市狐崎浜》

- ◆ 牡蠣養殖業者
加工場再建・6次産業化を支援



新規雇用8人

③

《仙台市》

- ◆ 野菜農家(農業法人化)
大型栽培ハウス建設・
6次産業化を支援



新規雇用19人

④

《亘理郡山元町》

- ◆ イチゴ農園(農業法人化)
大型栽培ハウス建設・
6次産業化を支援



新規雇用43人

①

《石巻市雄勝町》

- ◆ 銀鮭・ほたて養殖業者
6次産業化を支援



新規雇用1人

⑥

《気仙沼市》

- ◆ 水産加工業者
被災工場の再建を
支援



⑦

《南三陸町歌津地区》

- ◆ 総合建設業者
復興工事作業員の
寄宿舍建設を
きらやか銀行と支援



宮城県

震災後、創業先の新規雇用

創業支援先数

雇用創出人数



219先

1,574人

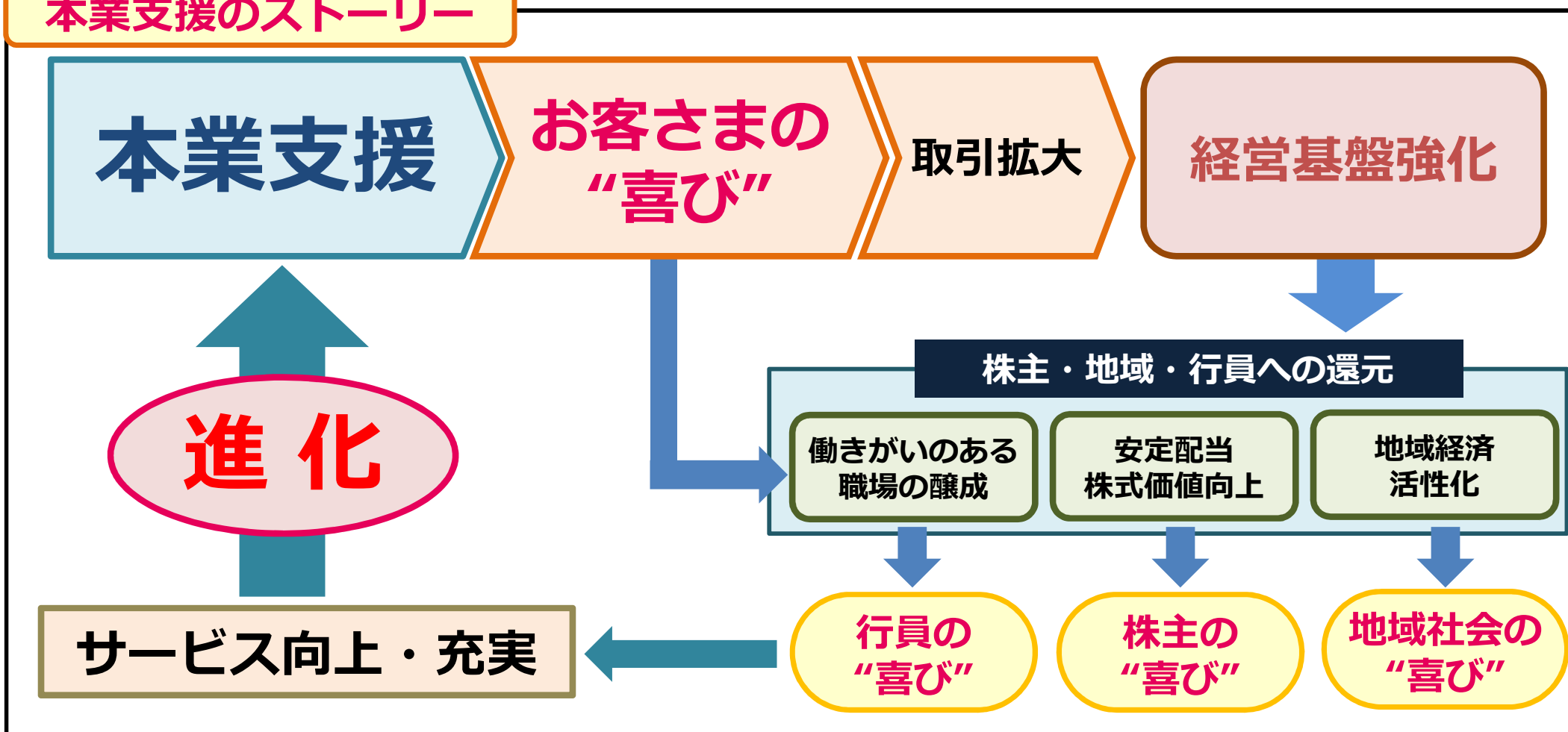
本業支援

5年前から実践

お客さまから大変喜ばれています

なぜ本業支援かというと

本業支援のストーリー



平成26年度の取組状況

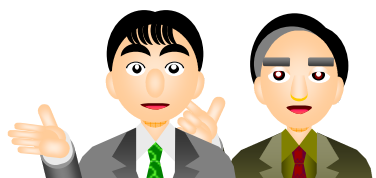


営業店

全行員による
継続的・組織的活動

事業ニーズ 3,827件
本業支援成約 2,780件
①販路拡大先 574件
②経費削減先 151件

お客さまの売上増加額 24億円



専門家集団

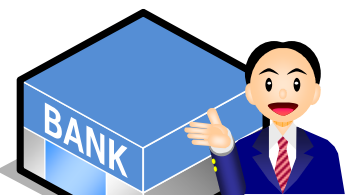
総勢 5名

公認会計士

M&A・事業承継 事業承継 57件
M&A 4件

経営コンサルタント

生産性向上・社員研修 実施先 7社



本部 + 営業店

本部専担者の配置
経営改善サポート

一緒に改善を目指した先 72先
うち、改善目標達成先 41先

お客さまの営業利益改善額 8億円

専門家集団の充実により、更に本業支援を徹底してまいります

経費削減先の具体的な事例



A社【小売業】

A社を取巻く環境

- ・仕入価格の高騰
- ・消費税増税
- ・電気料金の値上げ

経費
増加

A社の課題

経費増加分を販売価格へ転嫁できず、資金繰りが不安定

提案

- ①仕入方法を見直してみませんか？
- ②制度資金を活用してみませんか？
- ③国の支援策を取り入れてみませんか？



2年目の渉外行員

本業支援

- ①大量仕入によるコスト削減を提案
⇒仕入先との交渉結果、仕入価格の引下げを実現
- ②仕入資金として、制度資金の活用を提案
⇒市の商工振興課に打診し、「地域経済対策資金」の制度を活用。資金繰りの安定と保証料負担を軽減。
- ③「ミラサポ（専門家派遣事業）」の活用を提案
⇒国の支援施策を活用し、原価管理や経費削減など専門家による診断・助言を実施予定

お客さまの課題を徹底してお聴き（アクティブリスニング）し、的確な提案により課題を解決

経営改善サポートの具体的な事例



B社【食品製造販売業】

- ・長年地域に根ざした操業
- ・地域の学校給食の委託加工

B社の強み

地元で幅広く周知されている

新商品を開発するなど、売上確保を目指したものの…

長年の課題

大手メーカーとの競争により売上減少

専任担当者を配置し、様々な取り組みを実施してきたものの抜本的な改善までに至らなかった。

更なる本業支援

改善実績のある外部専門家を紹介

- ①利益率の高い商品の販売強化（低利益商品の生産中止）
- ②多品種小ロットの商品構成の見直し
- ③地元コミュニティを活用した商品PR

結果

当初計画比110%超となる売上高を実現

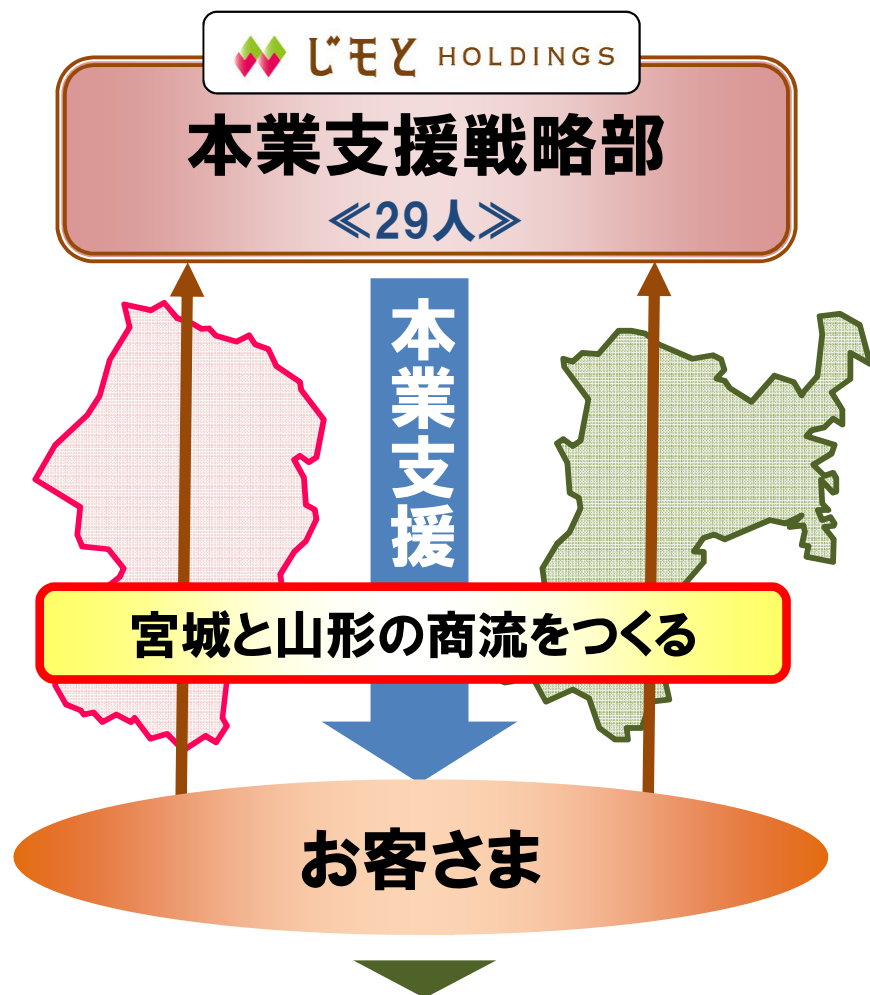
本業支援のKey Point

- ①現状分析や施策の策定など、継続した支援の実施
- ②業種特性を踏まえた専門コンサルタントとの協働

3. じもとホールディングスの取組みについて

じもとグループの「本業支援」は着実に進化・発展しています

平成26年10月1日 本業支援戦略部新設



これまで以上にスピーディーかつ高度な本業支援へ

役割分担の徹底

企画担当(2名) ⇒ 本業支援に係るグループ戦略の企画など

【具体的な動き】

・『じもとHDビジネスマッチング情報』の定期的な発行（情報提供）

情報トレーダー(6名) ⇒ 子銀行の情報調整・事業ニーズの仕分けなど

【具体的な動き】

・行動拠点の一元化による、事業ニーズ仕分けのスピードUP

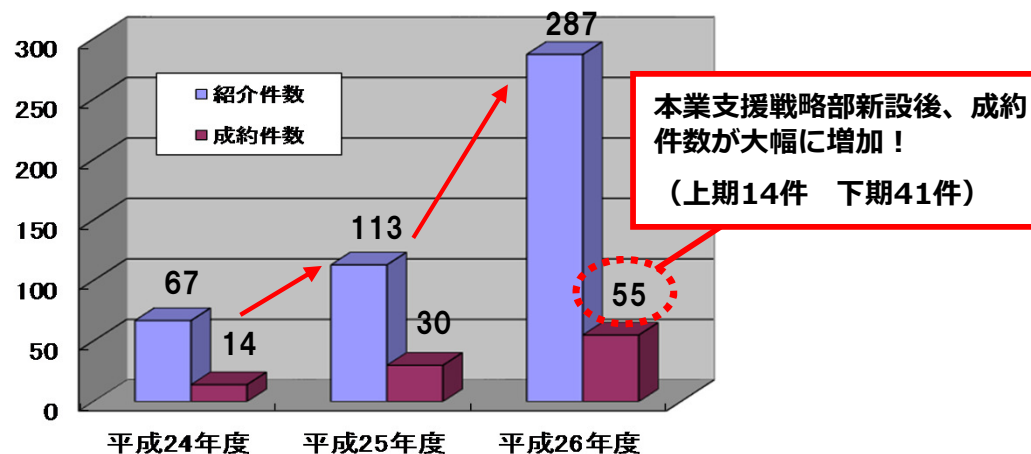
事業コーディネーター(18名) ⇒ 専門家の活用、外部機関との連携など

【具体的な動き】

・専門家のグループ内活用による、各種案件へのスピーディーで幅広い対応

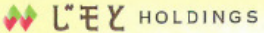
・営業店単独では対応の難しい、専門性の高い案件のサポート

宮城・山形のビジネスマッチングの実績



①「本業支援戦略部」の新設とその後の動き

『じもとHDビジネスマッチング情報』を利用した成約事例

**ビジネスマッチング情報**
本業支援戦略部
Vol.4 平成27年2月

じもとグループでは、お取引先の販路拡大や仕入先拡大に向けた『本業支援』として、きらやか銀行と仙台銀行が連携し、宮城と山形をつなぐビジネスマッチングに取り組んでおります。両行のお取引先から頂いた情報の一部をご紹介しますので、「詳細を聞きたい」「自社も依頼したい」などございましたら、お気軽に営業店担当者までお申し付けください。

**「合格祈願水」販売します！**

**溶接板・加工製品等受注します！**

**1. 仙台銀行のお取引先であるA社のニーズを掲載
(第一種電気工事資格取得者が2名以上在籍する企業を募集)**

**製品製造ライン受注します！**

**電気通信設備の協力企業求む！**

き 292 機械器具製造業（山形市）
当社は、工作・省力機械・ロボットシステム等を使ったオーダーメイド製品製造ラインや電子制御システム等を得意としています。

仙 295 設備工事業（仙台市）
公共・工場・店舗等の電気設備・通信工事の受注増加に伴い、第一種電気工事資格取得者が2名以上いる企業を紹介願います。

**2. 本情報誌を手にしたきらやか銀行のお取引先のB社が
A社とのマッチング希望し、きらやか銀行へ相談**

る庄内方式で施工しており、耐久性・安全性 製造等を行っています。タクト製造過程の

3. 両銀行の取引先担当者が仲介の上、A社、B社が商談

公設地（別荘地）販売します！ 「鶴みくら島」販売します！

**4. 商談の結果、A社の電気通信設備工事の現場監督として
B社の有資格者2名を派遣することで合意**

できます。研修施設としてもお勧めです。 望に応じた受け付けにも対応可能です。

商談成立



じもと HOLDINGS

本業支援戦略部 専門家集団



公認会計士



不動産鑑定士



経営コンサル



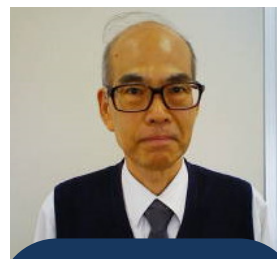
製造等専門



医療経営士



アグリ担当



日本経営
システム



工学博士



私たちが全力でサポートいたします！

②じもとホールディングスのトピックス

子銀行の基幹系システムを統一

きらやか銀行の基幹系システムは、平成27年5月にNTTデータのSTELLA CUBE（ステラキューブ）へ移行しました。これによりじもとグループ子銀行の基幹系システムが統一したことから、今後、業務の統一化や共同化を加速させ、さらに経営効率化を図ってまいります。

また、この効率化によって生み出される経営資源を、じもとグループの特徴である本業支援や復興支援に再配分し、取り組み体制を更に強化することで、お客さまの事業発展や地域経済の活性化に一層貢献してまいります。

『“最新”人事労務・就業規則セミナー』・『食品リスクセミナー』の開催

きらやか銀行と仙台銀行は、平成27年2月、三井住友海上火災保険株式会社との共催で『“最新”人事労務・就業セミナー』を開催し、参加した両行取引先経営者等33名が人事関連の法律改正の動向と今後の対応等を学びました。

また、同年2月、損害保険ジャパン日本興亜株式会社等との共催で『食品リスクセミナー』を開催し、両行取引先経営者等83名が、食の安全管理の現状とリコール対応等について学びました。

今後も、継続的に経営セミナーを開催し、取引企業の経営課題の解決をサポートしてまいります。



『“最新”人事労務・就業規則セミナー』



『食品リスクセミナー』

インターンシップの開催

きらやか銀行と仙台銀行は、社会貢献活動の一環として、4年制大学及び大学院に在学中の方を対象にしたインターンシップを開催いたしました。

インターンシップでは、金融業界・銀行業務の概要説明や実際に働いている職員とのコミュニケーション等を通して、金融業界とはどのような業種なのか、銀行とはどのような仕事をしているのか等、参加いただいた学生の皆さんに様々な情報を提供いたしました。



きらやか銀行にて開催



仙台銀行にて開催



キーワードは

“本気の”

本業支援

統合効果発揮

“本気とは”

より真摯にお客さまの
悩みに向き合う

より真剣にお客さまの
お役に立つ

よりいっそう
効率化を図る

中期経営計画の柱

本気の本業支援

「本業支援」の進化・発展
グループの特徴を発揮

じもとホールディングス

お客さまの事業、本業の向上のため
組織的な本業支援の更なる強化

震災復興支援の継続

宮城と山形を繋ぐ

コンサルティング機能の発揮

企業の創業・成長支援

事業承継・再生支援

県境を越えた情報の集約と提供
地方創生への貢献

きらやか銀行

仙台銀行

本気の統合効果発揮

経営の効率化・合理化
経営効果・相乗効果の発揮

じもとホールディングス

統一化

業務運営の統一

システムの統一

本部管理部門の統合

事務作業等集中業務の統合

ホールディングスへの業務集約化

グループ態勢の充実

共同化

きらやか銀行

仙台銀行

きらやか銀行のビジネスモデル

スタートは“本業支援”

本業支援

本
気

中小企業

職 域

オーナー

従業員

オーナーや従業員も含め、中小企業にこれまで以上の本業支援を行う。

お客様からの評価 = 真の喜びに繋がる

基本理念

“本気の本業支援”とは『お客様から評価される（＝真に喜ばれる）』本業支援

“本気の本業支援”の実施に向けて

1 専門家チームの充実

- ・ 専門家集団による、より高度な本業支援を実践
- ・ コンサル機能の更なる充実

2 人材育成の徹底

- ・ 自発的な行動のできる人材育成
- ・ “目利き”のできる人材育成

3 個人取引への拡大

- ・ 専担任員配置による取引深耕企画力の強化
- ・ きらやか銀行にしかできない商品やサービスの充実

4 態勢整備による本業支援の充実

- ・ 本業支援によるお客様への効果の見える化（定量化）の検討
- ・ 外部機関の活用や連携による事業性評価力の強化

宮城県が目指す将来の姿

創造的な復興、新たな産業の育成・成長
「地方創生」で活力ある地域社会の構築

10年後の“仙台銀行”の姿

地域金融機関としての存在感を向上

経営基盤の強化を実現

原動力は
行員の力！

人で勝負できる銀行に
—「本気の本業支援」を支える提案力をアップ—

1 地域金融機関としての存在感を向上

施策

- ・グループ戦略「**本業支援**」で
きめ細やかに地元企業を支援
- ・地域に応じ営業体制を再整備

宮城県へ貢献

被災企業の回復・成長、
地域の雇用創出へ
金融サービスの一層の充実、
持続的な提供

復興と地方創生

地域復興、人口減少抑制へ一助
人口減少下での地域社会機能維持へ

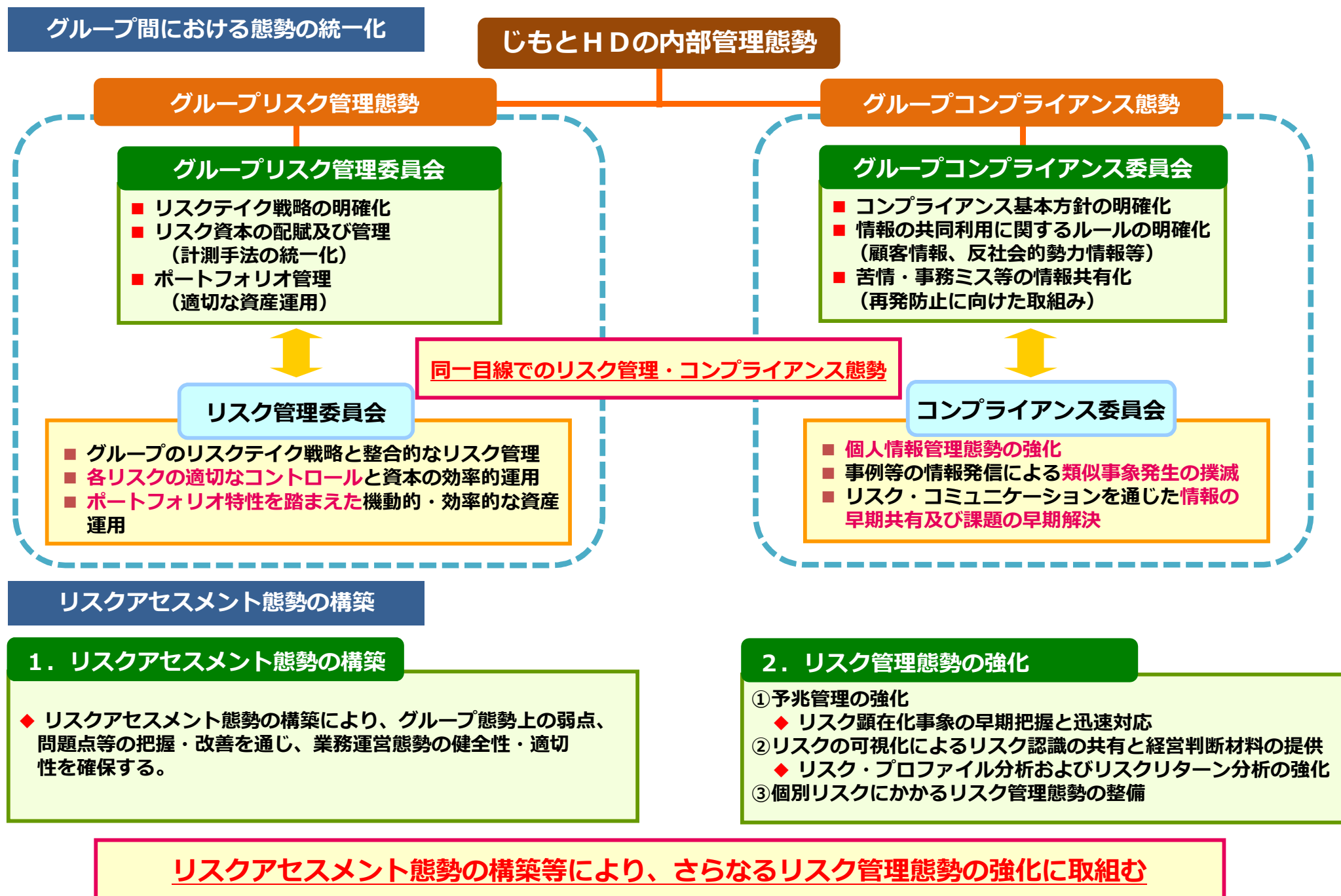
2 「本気の本業支援」を支える提案力をアップ

行員の潜在力を発掘、発揮
企画提案力、実践力、笑顔力 等

質の高い金融サービス創出
お客さまに喜ばれ、選ばれる

行員のやりがい、組織力UP
競合他行との差別化へ

④じもとホールディングスの内部管理態勢



本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることにご留意ください。

《当資料に関するお問い合わせ先》

株式会社 じもとホールディングス
総 合 企 画 部

TEL : 022-722-0011 (代表)
<http://www.jimoto-hd.co.jp>

